

を行ない、その要因と将来動向を明らかにしうる資料を得たいと考えている。

## 2. 調査の方法

選定された地域の調査区に住んでいる20歳以上の男女を対象にし、調査票を配票、自計により調査を実施する。

調査票の配票および回収は、下記調査対象市に依頼して選定された調査員が行なう。

## 3. 調査対象地域および客体

### (1) 調査地域

宮城県	仙台市
	石巻市
	古川市
熊本県	熊本市
	八代市
	荒尾市

### (2) 調査客体

仙台市	1,250世帯
石巻市	1,250世帯
古川市	1,200世帯
熊本市	1,250世帯
八代市	1,250世帯
荒尾市	1,200世帯

## 4. 調査時期

昭和56年6月1日～9月30日

## 5. 調査事項

- (1) 基本的人口学的事項
- (2) 住所移転に関する事項
- (3) 定住に関する事項
- (4) 生活、とくに健康、食生活に関する事項

## 6. 結果の集計公表は昭和57年3月末に人口問題研究所が行ない。関係の県および市に送付する予定である。

## 第33回日本人口学会大会

日本人口学会の第33回大会は、昭和56年6月5日（金）、6日（土）の両日にわたり、仙台市の東北学院同窓会館において開催された。日本人口学会の全国大会が東北の地で開催されたのは、昭和52年5月に福島市で開かれた第29回大会以来2回めのことである。今回の大会は、本学会の重鎮で東北学院大学（経済学部）教授の米沢治文会員を委員長とする大会運営委員会の多大の努力によって、盛大な大会日程を終了した。参加者は100名をこえ、本研究所からも多数の関係者が出席した。

研究発表会における一般報告、シンポジウムの題名および報告者を示すと次のとおりである。なお、本年度は会長講演も行なわれた。

第1日（6月5日）

### ○一般報告

1. インド北部の人口都市化の特徴—カルカッタ大都市圏の周辺地域を

- 中心に—……………谷 勝英 (東北福祉大学)
2. 中国の人口政策をめぐる最近の諸問題—婚姻法改正と計画生育条例—…若林 敬子 (人口問題研究所)
3. タイにおける家族計画……………西岡 和男 (国立公衆衛生院)  
村松 稔 (国立公衆衛生院)
4. タイ国の地域別人口増加……………小林 和正 (京都大学)
5. 天才遺伝論補遺……………川上 理一
6. 都市居住者の居住年数別死亡率……………正木 基文 (東京大学)
7. 中年期死亡者についての統計的観察……………飯淵 康雄 (琉球大学)
8. ジップの順位規模法則の「可分解性」……………鈴木 啓祐 (流通経済大学)
9. 地域人口移動のパターン—宮城県の事例—……………岡崎 陽一 (人口問題研究所)
10. 地域別の人口流動と産業構造……………高木 尚文 (帝京大学)  
堀 恒一 (東京都商工指導所)
11. 人口の地域的変動と水需給……………上坂 修夫 (駒沢大学)
12. 移動人口の定着度……………大友 篤 (宇都宮大学)
13. 男女年齢標準化世帯主率……………山本千鶴子 (人口問題研究所)  
伊藤 達也 (人口問題研究所)
14. 世帯数推計の方法について……………河野 稠果 (人口問題研究所)
15. ヒトの自然出生力の系統論的位置づけの試み……………増井 憲一 (京都大学)
16. 合成コーホートの利用とその問題点……………坪内 良博 (京都大学)
17. 配偶関係の年次別変動……………山本 文夫 (中村学園大学)

第2日 (6月6日)

○一般報告

18. 職業小分類による女子就業者の特性……………濱 英彦 (成城大学)
19. 我が国の明治期における人口変動と経済発展に関する計量的分析……………小川 直宏 (日本大学)
20. 古代日本における関東地方への朝鮮人労働力の流入……………石原 正令 (関東学園大学)
21. 人口問題の経済学的理念……………畑井 義隆 (明治学院大学)
22. 最近の地域出生力について……………高橋 真一 (神戸大学)
23. コウホート観察による出生力水準と出生意欲の推移  
—各種出生力調査の整理—……………渡邊 吉利 (人口問題研究所)

○会長講演

人口政策論……………黒田 俊夫 (日本大学)

○シンポジウム「わが国の出生率低下を考える」……………座長…安川 正彬 (慶応義塾大学)

- S1. 経済学的見地から……………大淵 寛 (中央大学)
- S2. 形式人口学的見地から……………伊藤 達也 (人口問題研究所)
- S3. 社会学的見地から……………阿藤 誠 (人口問題研究所)